個人情報を守ろう

情報社会が進行し、生活の一部としてインターネットは欠かせないものとなりつつある。小学生でもインターネット上では、一個人として、情報の発信者・受信者となりうる。身近にある学校用ホームページから発信される情報から、個人情報を見分ける視点を持つことは、自らの情報を守ろうとする態度を育むことに対して有効である。

① インターネットの使用について、それぞれの意識を交流する。 (03/03)

『インターネットは（　　）。』と板書する。

T:「(　　) にはどんな言葉が入ると思いますか。」

まずは、(便利) という言葉が出た。次に、(便利だけどあぶない。) と付け足す発表が続いた。そして、(使い方次第だ。) という言葉が付け加わり、周りも確かにそうだ、とうなずくそぶりを見せていた。こうした様子から、インターネットには二面性があるのではないかといった感覚を共有した。

② 便利さやあぶないと感じることについて、知っていることを交流する。 (05/08)

T:「便利・あぶないという言葉が出ましたが、どんな時にそう感じましたか。」

やや具体的に、それぞれの根拠となった経験を交流させると、おおむね以下のような反応があった。

便利だ・楽しい	あぶない・危険
・調べ学習で使ったけれど、情報が豊富で、早く見つけられる ・買い物や旅行の予約ができる。 ・学校のホームページで、様子がわかる。	・裏の顔がある。 ・お金がとられると聞いたことがある。 ・うそやさぎみたいなことがある。 ・ウイルスがあって、パソコンが壊れる。

児童の反応からは、利便性について、インターネットを生活でも利用している様子がより具体的に言葉で表され、生活経験から語ることができていることがうかがえた。一方、危険性については、「～と聞いたことがある」、「はっきりわからないけど、～。」といった文頭や文末に不確定要素を表す言葉を意識的に付け加えて話していた。こうしたことからも、実際に情報社会に潜む危険に遭遇した経験はまだない、もしくは気づいていないという状態にあるといえる。そこで、実際に取り上げるホームページの例として、多くの児童が共通して見ていると思われる学校ホームページを取り上げる。そして、ホームページが校内向け、対外向けの 2 種類が存在することを提示し、その存在理由を考える。

③ 家庭向け、対外向けのホームページを提示し、その存在理由を考える。　(08/16)

T ：「これは実際のホームページです。何のホームページでしょうか。」

A（児童・保護者向けホームページ）

B（一般公開用ホームページ）

モニターに左の画面を出すと、すぐによく見ている自分たちの様子がわかるホームページであることに気づく。続いて、右の画面を出すと、学校のものみたいだけどあまり見たことがないといった反応を示した。

T:「二つのページには、どんな違いがあるでしょう。」

A（児童・保護者向けホームページ）	B（一般公開用ホームページ）
・自分たちがたくさん出てくる。 ・写真が多い。 ・写真が多いのはしたことがたくさんだから。	・住所や電話番号が載っている。 ・説明が多い。 ・これからの予定や注意が書かれている。

それぞれの意見と対応させるように、「じゃあ、右は・・・。」などと問うと、共通点もあるという見方もあったが、「あり・なし」で区別できるようであることにも気づいた。そこで、この段階で考えさせたい存在理由について発問した。

T:「なぜ、二つの学校ホームページができているのでしょう。」

C:「見る人が違うから。」　C:「付け足しで、知りたい情報が見る人によって違うから。」

C:「B は、学校のことを知らない人が見るためだから。」　C:「B は、世界中誰でも用だから。」

④ 情報には、一人ひとりの人間に関する情報＝個人情報があることを知る。　(05/21)

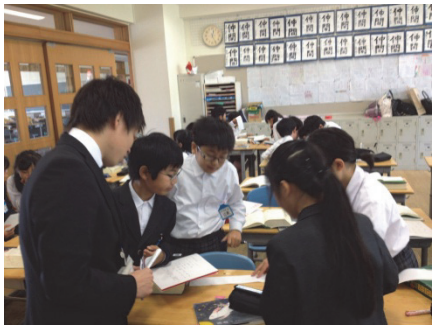
こうした意見が出てきた中で、守るべき情報があることを話した。

T:「A にあるような写真や自分たちの様子が B にないのは、誰が見てもよいホームページには、一人ひとりの人間に関する情報がないように作っているからです。そんな情報のことを個人情報と言います。」

言葉としては知っていたようで、「例えば…？」と言うと、「名前、電話番号、住所、性別、生年月日・・・」などが素早く出た。インターネットとは離れるが、「それって、名札に書いてあることだ。」、「平成○年度○○小学校○年○組○番」は世界に一人しかいない。」という発言もあった。確かに B では、個人情報が除外されていることを確認した。そのうえで、個人情報を読み取る視点をもって、A に出てくる写真を見ることを伝える。

⑤ 写真には、どんな個人情報が含まれているか読み解く。　(04/25)

T:「この写真は校内用ホームページに載っています。ここには、どんな個人情報が含まれているか探してみましょう。」



学級で話し合い活動している様子であるが、個人を識別できる情報として見つけたものを発表した。

C:「顔、名札が映っている。」

この点については多くの児童が気づいていたが、個人に集中するあまり、背景の様子には目がいっていない。実際には、掲示物にも個人情報が含まれているのだが、そのあたりの確認は、次の活動の中でも考えていく。

⑥ 実際に、授業風景の写真をＢのホームページに載せるための写真を撮る。　(10/35)

T:「学校でどんな授業をしているかを発信することも大切です。では、教室の授業風景をＢの誰でも見ることができるホームページに載せるには、どのような写真ならよいでしょう。」

グループに一台デジタルカメラを貸し出し、個人情報を意識した構図をイメージさせた。この時、授業者は個人情報の保護の対象にはならないこととした。活動の後、それぞれが撮影した写真をモニターで交流した。

画面を見ながら、なぜこのような視点で撮影したのか、どのようなことに気を付けたかを読み取るために、他のグループの写真をもとにその意図を考えさせた。

Ａ：正面後ろから撮ることで、座っている人の顔が映らないようにしている。
　教室全体の様子は伝わるようにも考えている。

Ｂ：黒板の近くを撮って、子どもが写らないようにしている。
　授業でやっていることが分かりやすいように撮った。

どちらもその人に関する情報に配慮したつもりで撮ったものであったが、本当に大丈夫かな、と検証を促すと、

C:「Ａには、給食当番表が写っている。ここにクラス皆の名前が張ってある。これも個人情報になるのではないか。」

C:「Ｂで、黒板には日直の名前がある。」

などの気づきが見られた。

T:「確かに、配慮したつもりでも掲示物やつくったものからも、そのクラスにいる人についての情報が載ってしまうことがあります。一つ前で見た、学校用の写真では大丈夫でしたか。」

児童はもう一度見直し、背景に映っている習字の掲示に気づいた。

⑦ 校内向けのホームページにも載せない方がよいものはないか考える。　(05/40)

世界中に公開されることを前提とした情報の扱いのみならず、校内向けとはいえ、何を載せてもよいというわけではない。ここでは、プライバシーに関する情報にも触れ、情報の取り扱いにも、慎重に取り扱う態度について、考えさせる。

T:「校内のホームページには、どんな写真を載せてもかまわないのでしょうか。」
C:「だめだと思います。載せてほしくないのもある。」
C:「たとえば、テストの点数・・・。」
C:「けんかしているところ。」「先生におこられているところ。」
C:「写っている人が見られて､恥ずかしかったり知られたくないなと思ったりすることはだめ。」
C:「その人が写っていなくても、その人だってわかったらだめだと思う。」
個人情報の扱いと関連させて、個人の感情にも触れることができる発言が見られた。

⑧ 今日の学習を振り返り、分かったことを書く。　(05/45)

T:「今日は、インターネットを通して、個人情報の大切さや守るために考えられていることについて学習しました。学習を振り返って、わかったことを書きましょう。」

主な児童の記述より
「ふだんからインターネットをすごく活用するので、気をつけようと思ったし、むやみに知らないサイトを開かず、個人のことも自分で守ろうと思います。」
「いつも簡単に書いている名前はとても大切な個人情報だと改めて分かりました。その個人情報が多くの人に知れわたれば、不利益を受けることも知りました。」
「名前を書いただけでもそれは貴重なものになるのだと知った。個人情報は多く、こわい。写真を撮られた人が気にするかもしれないので、気をつけないといけない。」
「インターネットは危険なところもあるけど便利。どんな機械にも短所や長所はあるので、そういう機会をうまく使っていくのが人間だと思った。」

主に、安全への知恵の中でも、情報を正しく安全に利用することに努めることについて、自他の情報を第三者にもらさないことに焦点を当てて振り返ることができていた。また、インターネットに限らず、情報を扱う場面は日常モラルとしても活用できることまで考えられた児童もいた。漠然と危険性を感じる状態であったことから、身近なホームページの比較や写真の撮り方といった情報スキルを交えた活動を通して、個人情報という視点を持たせることは、危険を回避するための視点を持つことができるという面から見ても、情報モラルの指導として有効であったと言える。